72 期リレーエッセイ

恩師の魂が降臨した はじめての証人尋問

会員　石原 亜弥

1　はじめに

弁護士になり，多くの男性にまぎれて働くものだと思っていた私ですが，事務所の可愛らしい秘書さんから「あやさん，あやさん」と下の名前で呼んで貰い，バレンタインチョコを貰い，休日は一緒に小籠包を食べに行き，おすすめの化粧品を教えて貰い，受験期に著しく低下した女子力が急上昇中です。

所属事務所では，想像以上に幅広い業務を大量に経験し，日々成長を感じています。慣れないことが多く大変ですが，毎日できることが１つずつ増えていく感じは楽しいです。

2　馬子にも衣裳

前々から，尋問をする時が来たら，修習先事務所の女性弁護士から譲り受けた「90年代のスーツ」を着ようと思っていたのですが，先日ついにその時を迎えました。

前夜は，たまたま修習先事務所からお食事にお誘いいただいていたので，なんとか準備を終えて参加しました。所長に，はじめての尋問を翌日に控えていることをお伝えすると，「それは大変だ。こんなところで油を売ってる場合じゃないからすぐに帰宅しなさい」と，一次会のお開きとともに強制送還されました（さすがに私も二次会まで行こうと思っていたわけではありません）。帰り際，普段は８割のパワーを心掛けること，尋問など「ここぞ」の時に120％を出し切ること，準備はいくらしても十分ではないので今夜は寝ないくらいのつもりで準備すること…など，所長から心構えを説かれ，気合いを入れ直していただきました。帰宅後，今夜は寝ないくらいのつもりで「90年代のスーツ」の肩パッドを外して準備は整いました。

迎えた当日，クライアント・証人の方とは１時間前に待ち合わせして，最後の確認。模擬裁判などの数少ない経験から尋問に苦手意識のあった私ですが，細かいことは気にしない，いつも笑顔でどっしりとしたスーツの元持ち主の魂でも乗り移ったかのように，不思議と緊張はしませんでした。クライアントはほとんど日本語を話さない外国の方ですが，頻繁に打合せをして濃密な時間を過ごしていたので，絆のようなものができたようにも感じました。相手方証人の反対尋問では全く予想していない事実が明らかになり，「準備はいくらしても十分ではない」を痛感しつつ，期日は嵐のように終わりました。まる一日がかりでヘトヘトでしたので，所長の言いつけに反して睡眠をしっかりとっておいたことは正解でした。

3　褒められたい…

もっとこの点やあの点を考えておけば良かったと，反省点は当然たくさん湧きます。質問の意図が思うように伝わらず，共同担当の上司に助けて貰う場面もありました。でも，自分としては…，初回にしては上出来だったのではないか…待てよ，どうなのか…と…。悶々としながら，翌日，上司から「初回にしては上出来でした」との言葉を貰い，やっと一仕事終えたような安堵感に浸りました。

尋問調書が届いたら，次の「ここぞ」ですよね。120％で最終準備書面にとり掛かります。